

平成25年度第2回秋田県環境影響評価審査会議事録

1. 日 時 平成26年3月26日(水) 13時30分から15時まで
2. 場 所 秋田県市町村会館 5階大会議室
3. 出席委員 井上正鉄委員、井上みずき委員、及川委員、小笠原委員、菊地委員、高根委員、土田委員、西村委員、藤田委員、本橋委員、吉澤委員
4. 議 事 諮問第4号 能代地区における風力発電事業環境影響評価準備書について
5. 議事の概要
知事より諮問された能代地区における風力発電事業環境影響評価準備書について審議し、その結果を知事に答申することとした。

委員	能代市長から、バードストライクについての事後調査について、「動物の構成から死骸を移動される恐れがあるため、調査方法及び調査期間について検討願いたい。」という意見が出ていたと思うが、どのように考えているか。
事業者	バードストライクについては、事後調査のほかに定期的なメンテナンス等で死骸の確認をする予定である。そのほか、事後調査自体についても、国の方からもアドバイスをもらっているので、今後学識者等に相談して見直しをしていきたい。
委員	それに関して資料では、死骸の調査の期間は、発電所運転開始後1年間、繁殖期に1回となっているが、もっと頻度を上げることはできないのか。
事業者	猛禽類については、あわせて営巣状況等を確認する予定としたので、その回数は増やしたいと考えている。
委員	バードストライクの把握は、事後調査に掛かってくると思うので、1週間に一度ぐらいの頻度でもいいと思っている。それぐらいの高頻度で起きる可能性がある。 ただ、バードストライクの頻度が非常に少なく見積もられているが、どのような計算方式なのか。
事業者	これは環境省が出している計算方法によるものであり、全体の調査面積の中で、風車が占める面積や飛行ルート等も踏まえた計算式であり、これからバードストライクが発生する確率を出しているが、不明なところもあるため、実際に調査して確認していくのが一番だろうと考えている。
委員	既設の風車にどれぐらいぶつかっているかということから見積ることはできないのか。あるいは、既設の風車のバードストライクの数は把握しているのか。

事業者	衝突モデルについては、新たなモデルと確率を求めて研究しているところであり、その研究の結果を待ちたいと考えている。また、近くの既設の風車は事業者が異なるので、こちらが立ち入って調査をするということではできないが、問い合わせたところ、バードストライクに関する追跡調査は、事業者独自では実施していないようである。
委員	準備書の8の1の1の46ページに風力発電機の低周波音や超低周波音の諸元が示されているが、これは今回建設するものと同機種のものか。
事業者	同じ機種のデータである。
委員	騒音については、データ集からの出典か。
事業者	騒音に関しては、メーカーの諸元を使用した。ただ、低周波音の諸元はメーカーで出していないため、国内で稼動している同じ機種を実測して、その発生源のレベルを出している。
委員	2の2の30ページの表の上に「なお、振動の発生源となる機器類はない」という記載があるが、どのような意味か。
事業者	低周波でなくて、振動そのものに関する発生源はないということを明記した。
委員	この評価書自体が、振動はどの程度かということの評価する項目があるのに、その評価に触れる前に、発生源はないとなぜ言えるのかわからない。例えば、その風車が回っているとしても、それは振動がまったく発生してないとは言えないと思う。ただ、それが環境にどの程度影響するかという点で言えば、極めて低いだとか、そのようなことは言えると思うが、少なくともこの段階で、発生していないと書かれるのは、ちょっと違和感がある。
事業者	検討する。
委員	資料の4の風車の影の予測結果について、「風車の影が民家に及ぶ可能性があるのは、冬至の夕方におけるB-5、6号機」とあり、ここに民家は存在していないとなっているが、こちらの地域は、例えば都市計画とか用途地域的にも、今後も民家やほかの建造物があまり建たない地域なのか。
事業者	用途地域指定はなく、砂防林の松林がほとんどであるため、ここに民家が建つという可能性はこれからはないものと考えている。
委員	資料4に工事終了後の法面に「速やかに草地を創出する」という文言があるが、これまでの例では、外来種が非常に多く吹き付けられるというケースがあるが、どういう草地にしたいのか。

事業者	野芝を吹き付けることとしている。
委員	外来種ではないのか。
事業者	外来種ではない。
委員	できるだけ地に合った植栽をお願いしたい。
委員	準備書の審査メモにボーリング調査の結果が載っており、これによるとこの孔内水位が2.4から6.9mぐらい地下にあるということであるが、これは純水なのか、それとも海水、あるいは混ざっているのか。また、これはほかの地域と比べて大体同じぐらいのものなのか、それとも特殊なものなのか。
事業者	真水か海水かということについては承知していない。ほかの地域と比べてということであれば、能代港あたりでは、ほかにもボーリングしているが、あのあたりの一般的な水位だと考えられる。
委員	能代市長の意見では、「騒音・超低周波音については事後調査の実施、検討を願いたい。」とあり、報告書の中には予測は非常に精密なものなので必要ないとされており、騒音予測結果も騒音基準以下ということで、事後調査の実施は必要ないということには私も同意するが、住民の方たちにもよく周知するというようなことも必要であると思う。
事業者	環境監視をして、その結果を市の広報等で公表することを検討している。
委員	資料4の「人と自然との触れ合いの活動の場」で、予測結果として「散歩等での利用が見られる」と記載されているが、林道を利用した散歩等であれば、影響評価がないとは言い切れないと思うが、意見を伺いたい。また、木くずはバイオマス発電に供給するということであるが、工事期間を考えると、伐採した松は細い枝まですべて搬出しないとマツノマダラカミキリの産卵場所になり、松枯れが広がる可能性があるので注意していただきたい。
事業者	「散歩等」については、調査ヒアリングの結果、一番多いのはキノコ採りであった。道路の歩行は、ヒアリングでも確認されなかったため調査しなかったが、そういった指摘を踏まえて、工事地の環境監視として、交通量、歩行者の数等を把握して、もし影響があるようであれば、そういうものに応じて追加して措置を講じていきたいと考えている。
事務局	バードストライクの発生の事後調査は十分な頻度を持ってやっていただきたい。おそらく、それほど高頻度に起こると思われぬ。既存の風車について、別の業者がチュウヒの調査を実施しているが、今の段階ではバードストライクが起きているという報告は、少なくとも県の方には来ていない。ただ、何らかのことで鳥が死ん

で落ちても、おそらくキツネがいればすぐ持っていってしまうと思われるため、なかなか発見はしづらいが、少なくとも現状の小さな風車では、あまり高頻度でバードストライクが起きている様子は見られないようである。しかし、今回は風車が大きくなるため、是非できる範囲で頻度を上げて実施していただきたい。

委員

バードストライクの問題については、頻度を上げて事後調査をしていただきたいということは同感である。しかも、ただ調査するだけではなくて、その結果を事務局に報告していただきたい。

事務局

バードストライクの調査は、事後調査として行われるのであれば、その調査結果は公表することになっているので、リアルタイムですぐ情報が入るかどうかというのは別にしても、取りまとまった段階で公表していただけるものと思っているので、よろしく願います。

事務局

騒音・低周波音を調査して広報に載せるということであるが、環境影響評価の手続き上、事後調査ということにしていただいて、その結果も公表するということにしていただきたい。